

プレスリリース

2025年12月8日

## コンゴ民主共和国を中心に感染拡大するエムボックス 検査薬のプロトタイプ開発に約7,000万円を投資

ニプロ、国立健康危機管理研究機構、  
東北大学発ベンチャーの株式会社TBAなどへ助成

公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金（以下、GHIT Fund）は、エムボックス（旧称：サル痘<sup>\*1</sup>）検査薬のプロトタイプ開発に約7,000万円の投資（助成）を決定しました。

### エムボックスの感染拡大について

エムボックスはコンゴ民主共和国をはじめサブサハラアフリカで感染が拡大しているウイルス性感染症です。世界保健機関（WHO）の報告によると2022年1月から2025年10月までの間に141か国で17万人を超える感染者数<sup>\*2</sup>が確認されています。コンゴ民主共和国における死亡者の約6割は5歳未満児で、この年齢層の致死率は約7~9%と報告<sup>\*3</sup>されています（2024年1月から5月までの期間）。感染者数の著しい増加を受け、2022年7月に引き続き、2024年8月にはアフリカ地域でのまん延を背景に「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」が宣言されました。その後、2025年9月に緊急事態宣言は解除されましたが、エムボックスは依然として周辺国でも患者が確認され、重篤な合併症の発生や再拡大のリスクが指摘されています<sup>\*4</sup>。

エムボックスは主に2つのクレード（系統）があり、その種類によって感染力や致死力が異なります。現地ではクレードを識別する診断体制が不十分であり、感染拡大防止のためには簡易で迅速かつクレード識別能を有する診断技術の確立が急務となっています。

### GHIT Fundの投資（助成）プロジェクトについて

このような背景からGHIT Fundは、日本で医療機器医薬事業を展開する・総合医療メーカーのニプロ株式会社（本社：大阪府）、東北大学発のベンチャー企業である株式会社TBA（本社：宮城県）、国立健康危機管理研究機構（JIHS）、国際非営利団体であるPATH（アメリカ）およびコンゴ民主共和国国立生物医学研究所が開発するエムボックス検査薬のプロトタイプ開発プロジェクトに約7,000万円を投資します。このプロジェクトでは安価で、簡便な遺伝子検査法であるIso-PAS法を用いて、クレードを区別できる検査薬のプロトタイプを開発し、その性能評価を行います。これによりインフラの整っていない地方の施設でも使用できる簡便な検査薬として、早期に適切な治療につなげ、感染の拡大を防止することが期待されます。

GHIT Fund は、2025 年 9 月に新興・再興感染症に関する研究へ投資する資金提供の国際連携ネットワークである「GloPID-R<sup>\*5</sup>」（Global Research Collaboration for Infectious Disease Preparedness）に参画しました。これは日本医療研究開発機構（AMED）に次ぎ、GloPID-R のメンバーとして参加する日本で 2 番目の組織です。GHIT Fund は、今後も革新的な診断技術の開発支援を通じて、将来の公衆衛生上の課題に迅速に対応してまいります。

注記

- 1 エムボックスは、2022 年に世界保健機関（WHO）によりサル痘から名称変更されました。
- 2 WHO（世界保健機関）参照 [https://worldhealthorg.shinyapps.io/mpx\\_global/](https://worldhealthorg.shinyapps.io/mpx_global/)（2025 年 11 月 21 日時点）
- 3 WHO（世界保健機関）参照 <https://www.who.int/emergencies/disease-outbreak-news/item/2024-DON522>（2024 年 6 月発表）
- 4 AfricaCDC: <https://africacdc.org/news-item/mpox-still-a-continental-emergency-africa-cdc-advisory-group-recommends/>（2025 年 9 月発表）
- 5 GloPID-R 事務局は、欧州連合（EU）の研究・イノベーション枠組みプログラム「Horizon Europe」の助成を受けています。

【注意事項】

1. GHIT Fund では、製品開発案件に対して「助成」することを、「投資」と表現しています。製品開発に対して資金提供だけを行うのではなく、積極的に進捗管理に関与し、成果が見込めないプロジェクトについては直ちに中止するなど、厳格なポートフォリオ・マネジメントを行っています。一般的に用いられる、金銭的利益を目的とした「投資」とは意味合いが異なります。
2. 「継続投資」とは、過去に GHIT Fund から投資を受けている製品開発パートナーが、GHIT Fund から新たな投資を受ける際に用いることを指します。
3. 本プレスリリースの別紙 1 に記載した各プロジェクト概要は、製品開発パートナーが GHIT Fund に提出した資料から該当箇所を抜粋したものです。詳しくは、GHIT Fund のウェブサイトをご覧ください。

【グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund）について】

公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund）は、日本政府（外務省、厚生労働省）、製薬企業などの民間企業、ゲイツ財団、ウェルカム、国連開発計画が参画する国際的な官民パートナーシップです。世界の最貧困層の健康を脅かすマラリア、結核、顧みられない熱帯病（NTDs）などの感染症と闘うための新薬開発への投資を行っています。治療薬、ワクチン、診断薬を開発するために、GHIT Fund は日本の製薬企業、大学、研究機関の製品開発への参画と、海外の機関との連携を促進しています。詳しくは、<https://www.ghitfund.org/jp> をご覧ください。

別紙：今回の投資案件概要

ID: G2025-125

|                |   |
|----------------|---|
| プロジェクト<br>タイトル | Mpox 検出のための Iso-PAS 技術の開発と性能評価 (Iso-PAS Mpox)   |
| 製品開発<br>パートナー  | 1. ニプロ株式会社 (日本)<br>2. 株式会社 TBA (日本)<br>3. 国立健康危機管理研究機構(JIHS/日本)<br>4. PATH (アメリカ)<br>5. 国立生物医学研究所 (コンゴ民主共和国)  |
| 疾患             | エムボックス  |
| 製品             | 診断薬   |
| 開発段階           | テクニカル・フィージビリティ  |
| 投資額            | ¥71,279,693   |
| ステータス          | 新規  |
| 概要             | <p>【プロジェクトの目的】<br/>本プロジェクトでは、安価、簡便な遺伝子検査法である Iso-PAS 法を用いて、エムボックスのクレード I とクレード II を区別できる検査キットの開発とその評価に取り組みます。将来的にはエムボックス蔓延地域での実証データを積み上げ、WHO の緊急使用リスト(EUL)に登録されることを目指します。</p> <p>【プロジェクト・デザイン】<br/>本プロジェクトでは、以下の活動を実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) Iso-PAS 技術を用いたエムボックス検査薬のプロトタイプ開発と合成 DNA を用いた性能評価を行います。</li> <li>2) コンゴ民主共和国において臨床検体を用いたプロトタイプの性能評価を行います。</li> </ol> |
| プロジェクト詳細       | <a href="https://www.ghitfund.org/investment/porfoliodetail/detail/250/jp">https://www.ghitfund.org/investment/porfoliodetail/detail/250/jp</a>   |

詳しくは、GHIT Fund のウェブサイトをご覧ください。

投資実績：<https://www.ghitfund.org/investment/overview/jp>

ポートフォリオ：<https://www.ghitfund.org/investment/portfolio/jp>

開発状況：<https://www.ghitfund.org/investment/advancingportfolio/jp>

臨床試験：<https://www.ghitfund.org/investment/clinicalcandidates/jp>